



西区井口のタケノコ畑。斜面でのタケノコ掘りは体力勝負。



ベニアズマ、ベニハルカ、安納芋などを栽培している。(写真はベニアズマ)



幼い頃に土に触れた体験は、
 大きくなっても
 必ず覚えているはず。

サツマイモは苗も出荷している。他にも、タケノコ、タマネギ、葉物野菜、ニンジンなど扱う品種の幅は広い。

My History
 マイ・ヒストリー
 2005年 大学を卒業し就職
 2006年 祖父の思いを継ぎ
 農業の道へ

My Hobby
 マイ・ホビー
 登山。大学の時の友人と
 北アルプスに行くことも。



「収穫を通じて野菜を好きになってもらえたら」と鍛冶山さん。

安佐南区大塚では、5年ほど前からサツマイモを育てている。3月中ごろから苗を準備し、5月上旬から植え付け。今年は猛暑だったのでやや成長が遅かったが、収穫は例年通り9月の終わりから始まった。「近くの幼稚園児が毎年いも掘りに来るので、なるべく農業は使われないようにしています。土に触れ、自ら収穫した体験はきつと心に残るはずです」子どもたちに農業の喜びを体験してほしいという考え方も、父の正照さんから受け継いだものだ。自分の顔よりも大きいサツマイモを収穫して喜ぶ子どもたちの笑顔

**農業の喜びを伝えながら
 焼きいも屋の夢を追う**

直すことにした。現場であらためて感じたのは「教科書通りにはいかない」ということだった。「基本的には技術は自分で身に付けるもの」という父の背中を見て、経験を積み重ねることで身に付くもの大きいことを知った。例えば、同じ作物を作るにしても、その年の気候や土壌によって作り方は全く違う。だからこそ、日々学び続ける向上心や挑戦する心をずっと持ち続けていかなければいけない。両親から感じるその思いを、政隆さんも受け継いでいる。

**両親から受け継いだ
 挑み続ける心**

「小さい頃から農業は身近にありました。家の手伝いもよくしていました」そう語る鍛冶山政隆さん。父の正照さんと母の好恵さんが営む西区井口の「かじやま農園」では、長年、良質なタケノコを生産し続けて

こいぶみ——表紙の生産者をご紹介

鍛冶山 政隆さん
 (36歳) 西区井口・安佐南区大塚

アストラムライン大塚駅のすぐ近く、交通量の多い県道71号線から見渡せる場所に鍛冶山さんのサツマイモ畑がある。幼いころから「農業」が身近にあった鍛冶山さん。その来歴や将来の夢を伺った。

きた。そこで育った政隆さんは、自然と農業の道に進もうと考えるようになった。大学は農学部に進学、農業機械の会社に就職するも、すぐに祖父の死という現実と直面してしまう。「できれば農業を継いでくれないか」亡くなる前に祖父から掛けられた一言で思いを新たに、会社を辞め父のもとで農業を学び

は、政隆さんに大きなエネルギーを与えてくれる。「農園自体を受け継ぐだけでなく、農業の喜びや楽しさを次世代に伝えていくことも引き継いでいきたい」そう考えている。最後に今後チャレンジしてみたいことを伺ったところ「焼きいも屋さん」という答えが返ってきた。自ら作ったサツマイモを、焼きいもにして、自ら売り歩く。生産者が加工、販売まで行う「一人6次産業」は、実現した際にはきつと大きな反響を呼ぶはずだ。



「家に帰ると1歳の子どもの玄関まで迎えに来てくれます。1日の疲れも吹っ飛びますね」と鍛冶山さん。

もくじ

こいぶと——表紙の生産者をご紹介
 西区井口・安佐南区大塚
 鍛冶山 政隆さん 2

特集
 季節到来!広島冬の味覚をお届け
 本場川内特産
 「広島菜漬」 4

農の現場から⑯
 芸北地区 6

●JA広島市通信 8

●ふれあい掲示板 10

●変わるんJA [第7回] 11

あなたの暮らしに支店便り [第2回]
 緑井支店 12

JAヘルシークリニック
 慢性腎臓病(CKD)
 を知ろう 13

松田麗子の
 台所からこんにちは
 芸北リンゴの白和え 14

はじめての家庭菜園
 ミツバ 15

●わが家のスター 16

●おしゃべり広場 16

●クロスワードパズル 17

●JA広島市 情報BOX 18

●ひろしまる倶楽部 & こいぶみ
 農家今昔物語 20

本誌タイトル「こいぶみ」とは、JA広島市の気持ちをまっすぐに、組合員をはじめ多くの人に届けるため、広報誌を手紙に見立てたところから命名いたしました。「こいぶみ」の「こい」には、人や地域を愛する「恋」のほか、多くの人に呼んでもらえる「来い」、情報が「濃い」など、さまざまな意味を含め表現しています。

